

グループ売上高200億円に

丸井織物 20年へ経営計画策定

織布メーカーの丸井織物（石川県中能登町）は、今期（2015年12月期）をスタートとする5カ年の中期経営計画を策定した。織布の自社ブランド展開を強化するほか、生産効率の向上や新規事業の開拓も進めることで、20年12月期のグループ売上高を前期（14年12月期）の110億円から倍増させ、200億円とすることを目指す。

現在、衣料などの製造も含めて売り込む「提案型委託」と「海外生産」が売り上げの半々を占める。20年12月期には自社ブランド

による「自販」と「I T部門」の売り上げも伸び、新たな収益柱とする。将来的には「丸井ホールディングス」の設立も視野に入れる。

前期の売上高は、13年比9・6%増で、海外アウト

ドア向けが好調だったほか、同社の定番である薄地素材だけではなく、やや厚みのある「中薄地」素材をカジュアル衣料向けに拡販した。若手中心の部局横断チームによる業務改善で、生産のロスが半減した。

2年前に立ち上げた織布の自社ブランドは、現在3種類に増えた。異なる2色の糸を使い、表地と裏地で異なる色を表現する「カラカンビオ」Ⅱ写真左Ⅱ、天

然繊維の質感と機能性を兼ね備えた「アルトリティモ」Ⅱ同右Ⅱ、形状記憶性が高い婦人衣料向け素材「ミフォルマ」Ⅱ同中央Ⅱとなる。先の2ブランドは中薄地より厚みがある「中肉」素材で、新商品開発を促す。

コンサル業務に参入

丸井織物は、繊維企業を対象にした経営、技術面でのコンサルタント業務に参入した。第一弾として、福

島県内の織布メーカーの支援を始めた。丸井織物が培ってきた作業管理の方法や現場のモチベーション向上

方法を活用し、前期（14年6月期）の最終赤字が今期（15年6月期）には黒字化する見通し。

LINE、ネットショップ…

丸井織物はITを取り入れた経営改革を進めている。生産工程の管理や課題の解析だけでなく、ネットショップや無料通話アプリLINE（ライン）の「スタンプ」も開発。従来の繊維メーカーの枠にとどまらず、幅広いジャン

ルで新業態を模索している。ラインの「スタンプ」は、メッセージのやりとりに添えて、送り手の感情を表現するイラスト画像。「男は仕事や！」のセリフが添えられた男性のイラストなどを用意した。

今春をめどに、インターネッ上で国内各地の生地を販売と話した。

売するネットショップや、オンラインTシャツを作るサイトも開設する。

ネットショップには国内のメーカー25社が参加する予定で、宮本徹社長は「繊維メーカーがITという新しいツールをどこまで活用できるか、新しい販路、業態を探りたい」と話した。

IT活用で 新業態探る

丸井織物はITを取り入れた経営改革を進めている。生産工程の管理や課題の解析だけでなく、ネットショップや無料通話アプリLINE（ライン）の「スタンプ」も開発。従来の繊維メーカーの枠にとどまらず、幅広いジャン

ルで新業態を模索している。ラインの「スタンプ」は、メッセージのやりとりに添えて、送り手の感情を表現するイラスト画像。「男は仕事や！」のセリフが添えられた男性のイラストなどを用意した。

今春をめどに、インターネッ上で国内各地の生地を販売と話した。



丸井織物の展示場。写真左は、天

丸井織物はITを取り入れた経営改革を進めている。生産工程の管理や課題の解析だけでなく、ネットショップや無料通話アプリLINE（ライン）の「スタンプ」も開発。従来の繊維メーカーの枠にとどまらず、幅広いジャン

ルで新業態を模索している。ラインの「スタンプ」は、メッセージのやりとりに添えて、送り手の感情を表現するイラスト画像。「男は仕事や！」のセリフが添えられた男性のイラストなどを用意した。

今春をめどに、インターネッ上で国内各地の生地を販売と話した。

売するネットショップや、オンラインTシャツを作るサイトも開設する。

ネットショップには国内のメーカー25社が参加する予定で、宮本徹社長は「繊維メーカーがITという新しいツールをどこまで活用できるか、新しい販路、業態を探りたい」と話した。